

## 水稲新品種「げんきまる」の復元田等における栽培法（栽植密度）

古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

平成21年度に本県水稲奨励品種として採用された中生のうるち品種「げんきまる」（系統名「東北189号」、普及に移す技術第85号）は、耐倒伏性及び収量性に優れ、復元田等の地力の高いほ場条件下で多収が見込まれ、低コスト栽培可能な品種として期待されている。そこで、「げんきまる」を安定生産するための栽培法（栽植密度）についてその目安が得られたので、参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) 栽植密度を18.2株/㎡で栽培することで収量が高く、倒伏程度は低い（図1、表1）。
- 2) 粒厚別の粒重比では1.7mmから増加し、2.0mmから2.1mmが最も高い（図2）。1.7mmから1.9mm間で約40kg/10aの中米が発生する（表1、図3）。

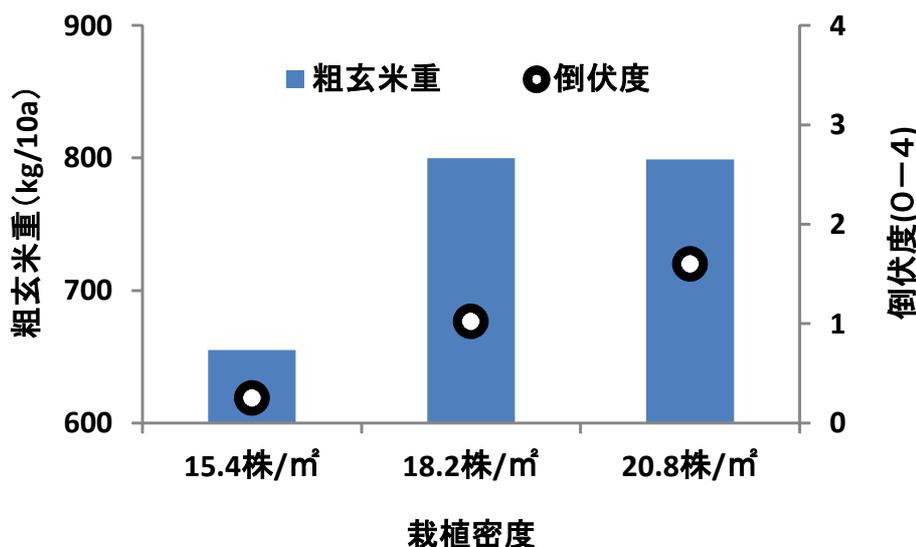


図1 現地ほ場における栽植密度と収量（粗玄米重）  
 注1) 復元田等7ほ場の平均（平成21年，平成22年）  
 注2) 基肥（0kgまたは2kg）施用，追肥なし  
 注3) 倒伏度：0（無倒伏）～4（完全倒伏）

### 3 利活用の留意点

- 1) 「げんきまる」の特性については、普及に移す技術第85号を参照のこと。
- 2) 復元田等の地力の高いほ場条件下で高い収量が得られるが、低いほ場条件下では収量が劣る。
- 3) 耐倒伏性は”強”であるが、気象状況等により倒伏する場合がある。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

新規需要米栽培・加工適性試験 平成21年～22年度

##### 2) 参考データ

表1 現地ほ場における収量構成要素および品質

栽植密度 (株/㎡)	出穂25日後			収量構成要素				倒伏度
	稈長 (cm)	穂長 (cm)	葉色 (GM)	穂数 (本/㎡)	1穂粒数 (粒)	㎡当たり粒数 (千粒/㎡)	粗玄米 (kg/10a)	
15.4	94.8	21.1	31.9	295	106	31.3	655	0.3
18.2	93.7	21.0	33.1	378	112	42.1	800	1.0
20.8	94.4	21.2	35.1	400	106	42.6	799	1.6

栽植密度 (株/㎡)	登熟歩合(%)		千粒重(g)		精玄米重 (kg/10a)		品質分析(1.9mm以上)			
	(1.7mm, 1.9mm)		(1.7mm, 1.9mm)		(1.7mm, 1.9mm)		整粒比 (%)	胴割粒比 (%)	タンパク質 (%)	味度値
15.4	88.1	81.7	23.5	24.0	644	607	75.9	0.8	6.8	69.2
18.2	81.6	75.6	23.1	23.5	754	714	74.7	0.3	7.2	68.0
20.8	81.1	75.6	23.1	23.6	792	752	73.3	0.5	7.4	65.3

注1) 復元田等7ほ場の平均 (平成21年, 平成22年)

注2) 基肥 (0kgまたは2kg) 施用, 追肥なし

注3) 倒伏度: 0 (無倒伏) ~4 (完全倒伏)

注4) 整粒歩合は穀粒判別器 (S社製RGQI10A), 玄米タンパク含有率は近赤外米食味品質分析計 (N社製6500), 味度値は味度メーター (T社MA90型) で測定。

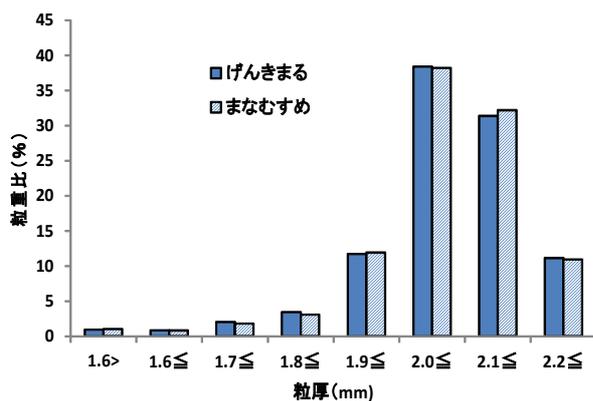


図2 現地ほ場における粒厚別の粒重比

注) 復元田等7ほ場の7平均

(平成21年, 平成22年)

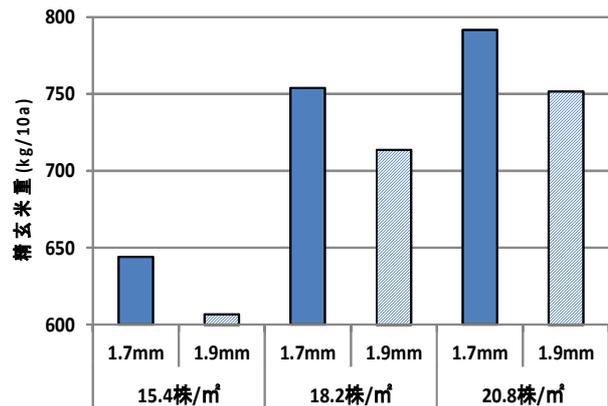


図3 現地ほ場における栽植密度別の精玄米重

注) 復元田等7ほ場の7平均

(平成21年, 平成22年)

##### 3) 発表論文等 なし